

令和4年度 小笠原諸島森林生態系保護地域部会
第1回 小笠原部会
議事概要

日時：令和4年11月18日（金）10：00～12：00

開催方式：基本的にWEB会議

※便宜上、父島の小笠原世界遺産センターに会場を設置

(4-1 検討項目)

(1) 指定ルートの評価について

[父島：夜明山ルート]

- ・特に意見なし

[父島：傘山ルート]

- ・根茎への踏圧について、根茎を踏まれると植物が弱ることが知られており、屋久島（縄文杉）では、木製階段の設置等の対策をしている。小笠原では、人工物の設置は不適なので、植生が衰弱してくるようであれば、人数制限等を視野に入れて考える必要がある。

[母島：裏高根ルート]

- ・特に意見なし。

[母島：鍋弦山ルート]

- ・鍋弦山ルートについては、変更する方針という認識でよいのか。現行の鍋弦山ルートは、オオハマギキョウやツルワダン等の希少植物があり、利用による影響を考えると利用しない方がよい。

⇒現行の鍋弦山ルートと要望ルートを比較し、今後、現地連絡会で検討していきたい。

[4ルートを通じて]

- ・父島の2ルートの踏査に同行しており、評価について異議はない。国有林内の戦跡ツアーは小笠原の重要な観光資源であり、安全面と管理面を含めて利用方法を考えていく必要がある。

⇒この課題の早期解決はハードルが高いが、関係者間で解決方法を検討していきたい。

(2) 指定ルート上の外来草本駆除の新たな取組（試行）について

⇒この取組に関しては、義務やルール化は考えておらず、自発的に行いたいというガイドにのみお願いしたいと考えている。

- ・非常に面白い取組だと思う。作業による種子の衣服等への付着に伴う拡散等、人為的な影響により外来草本（センダングサ等）の分布が拡大したというバックデータはあるか。

⇒バックデータは無いが人為的な拡散があると考える。なお、父島はノヤギが生息しており指定ルート以外にもセンダングサが拡散している。

- ・近年、登山客による外来草本の拡散が問題となっている。父島はノヤギの影響が大きいと思うが、今後、外来草本の人為的拡散についてもデータが必要になるかもしれない。
- ・駆除した外来草本を指定ルート上に集積することで、風で種子が飛び、拡散の原因になりうる。ゴミ袋を持参するなど、処理方法も検討する必要がある。

⇒父島ではノヤギの影響で指定ルート以外にも拡散しており、ルート上から排除しても周辺からの種子供給がある。駆除した外来草本をルート付近の一箇所に集積する方針で試行し、今後、指定ルート上の外来草本が減少してきた時点で、持ち帰りなどを検討したい。まずは、ガイドの方々が取組やすい方法でスタートしたい。

- ・小笠原野生生物研究会ではセンダングサの駆除を実施する際、先端の種子部を切り取りゴミ袋等に入れて持ち帰り、残った個体は抜き取りその場に残置している。
- ・最初はガイドの方々が取組みやすい方法でスタートし、問題が見つかった際は適宜修正するという方針が良いと思う。

(3) 本年度の指定ルート評価進捗（現地踏査予定）について

- ・特に意見なし。

(4) ルート状況（モニタリング資料等）のガイド提供について

- ・現状では、ガイドの方々にルートの詳細図は配布していないという認識でよいか。また、外部には出さないという認識でよいか。

⇒現在は「小笠原諸島森林生態系保護地域ルート図」のみの配布としている。また、詳細図の配布はガイド限りと考えている。

- ・詳細図を配布することはよいと思うが、村民向け講習を受けた方にも配布するのか。

⇒村民への講習は、短時間の簡易講習であるが、ガイドは4時間の講習を受講しており、内容に差がある。また、転写・複写禁止の資料をネット上に公開していた村民も確認されており、ガイドのみの配布としたい。

(4-2 報告項目)

(5) 令和4年度 林野庁・環境省・東京都における主な事業内容について

- ・タケ・ササ類の薬剤駆除について、防除の全体像的なものはないのか。薬剤だけの駆除ではなく刈払い等も行うと思うが、駆除方針はあるのか。

⇒基本的な方針は立てている。全体的なところでは、タケ・ササ類の薬剤を使用した試験的駆除を実施しながら、伐採等の刈払い駆除を実施している。媒島については、今後ワークショップ等も企画しており、皆様からのご助言等をお願いしたいと考えている。

- ・タケ・ササ類の生態は独特で、種子繁殖はしないと考えてよい。根茎で分散していく。例

えば、タケ・ササ類の根茎が残った土を移動することで拡散する。そのあたりも踏まえ、計画して頂きたい。

- ・オガサワラグワに関して、可能であれば、各関係機関での1年間の実施状況、進捗等を全体でまとめたものが欲しい。また、それらを本会議の委員、住民に説明する機会を設けていただければありがたい。各関係機関の取り組みをまとめることで、オガサワラグワに関する毎年の全体像を掴めると思う。

(6) ボランティア・森林環境教育等の実施に係る連携・協働について

- ・特に意見なし。

(7) 民間団体との協定締結による森林づくりについて

- ・特に意見なし。

(8) 母島施設について

- ・特に意見なし。

(9) オガサワラビロウ採取試験状況について

- ・特に意見なし。

(10) その他

[平島のネズミ対策について]

- ・特に意見なし。

[全体を通じて]

- ・(傍聴の方からの発言を受けて) 外来種の拡散防止という観点で、分布情報収集、警戒、対策を行うことは重要なことであるが、相談窓口がはっきりしておらず大きな課題と思う。集落地は保全エリアに隣接しており小笠原の世界遺産管理上、重要である。外来種情報に関して、どこかの行政機関が一手に引受け、父島と母島で分布の情報を収集し、判断する必要がある。

⇒見慣れない、または新たな外来種情報については、村民日より等も利用し周知しているが、遺産センターが一括して窓口として対応することとしている。引き続き環境省で受け、情報共有し、必要な対応を必要な部署で対応することとしたい。